

都留文科大学報

Vol.134
July. 2017



第48回
つるこどもまつりが
開催されました

特集 センター改革

都留文科大学入学式
新教員紹介
学外研究報告
講演会だより
昨年度の就職状況
学生による授業アンケート
文大だより
ぶんだい堂



第44回鶴鷹祭 開催



平成29年度 都留文科大学入学式



都留文科大学入学式

今年の入学者は901名

4月5日（水）、都の杜うぐいすホールにおいて、平成29年度都留文科大学入学式を開催いたしました。

式典は、学科別に2部制で実施されました。午前10時から行われた第一部では、初等教育学科・英文学科・国際教育学科・専攻科・大学院・編入生（初等教育学科・英文学科）、午後1時30分からの第二部では、国文学科・社会学科・比較文化学科・編入生（国文学科・社会学科・比較文化学科）を対象に行われました。

入学者の内訳は、初等教育学科 207 名、国文学科 145 名、英文学科 142 名、社会学科現代社会専攻 112 名、同学科環境・コミュニティ創造専攻 64 名、比較文化学科 141 名、国際教育学科 55 名、文学専攻科 3 名、大学院文学研究科 11 名、学部3年次編入 21 名であり、合わせて 901 名が都留文科大学に入学しました。

会場の大ホールは、入学者およびその家族などでほぼ満員となり、小ホールのスクリーンでも家族が見守る中、式典が執り行われました。

新入生代表による挨拶が行われ、第一部では初等教育学科の曾根海人さんが「自らの夢を実現するために何をすべきかをしっかり考え、友人たちと切磋琢磨しながら、現実立ち向かう力を身につけていきたい」と、また第二部では社会学科の森愛理さんが「部活動やサークル活動にも積極的に取り組み、豊かな人間関係を築くとともに、自らを磨いて社会に貢献できるよう、成長していきたい」とそれぞれの決意を述べてくれました。

最後には、吉田悟氏の指揮による本学管弦楽団の演奏にのせて、本学合唱団とともに学生歌「花のかげ」を全員で合唱し、厳粛なうちに式を終りました。



▲当日の様子



▲スカウトストリート企画

新入生のことば



文学部 初等教育学科
新入生代表 曾根海人

暖かな春の陽差しとともに、希望の蕾も膨らむこの佳き日に、伝統ある都留文科大学の入学式を迎えられたことを、大変嬉しく思います。私たちがこの場にいられるのも、母校の先生方の熱心なご指導や、家族の愛情、友人たちの励ましなど、多くの方々の支えのおかげです。そのことを心に留め、これから始まる大学生活を実りあるものにすべく、日々精進していきたいと思っています。

東日本大震災と原発事故から六年の月日が経ちますが、未だに避難生活を余儀なくされている方々も大勢います。その後も、地震や豪雨災害などが続き、多くの尊い命が奪われ、当たり前だった生活が失われています。この辛い状況の中でも、前向きに生きる方々の姿を通して、私たちは、人と人とのつながりの大切さ、諦めずに困難を乗り越えることの大切さを学ぶことができました。

現代社会の急速なグローバル化や情報化は、プラ

ス・マイナス両面から私たちの生活に日々変化をもたらしています。中でも今年は、アメリカの新大統領就任、イギリスのEU離脱などの大きな出来事があり、世界の経済や政治情勢にも大きな影響を及ぼしそうです。日本国内を見ても、非正規雇用の増大や格差の拡大、少子高齢化や教育・福祉の問題など、私たち若い世代の将来に不安を抱かせる問題が増え続けています。

私たちは、このような変化の渦の中で、それぞれに新たな夢や目標を抱いて、生きていこうとしています。しかし、その眼前にはさまざまな壁が立ちわだかまっています。だからこそ、自らの夢を実現するために何をすべきかしっかりと考え、大学での学びを糧に、友人たちと切磋琢磨しながら、現実に向かう力を身につけていきたいと思っています。

都留文科大学には、全国各地から学生が集まってきます。さまざまな考えや経験を持つ皆さんと共に学べる環境の中で、勉学に励むことはもちろん、部活動・サークル活動などでも、お互いに刺激し合いながらさまざまな経験を積んで、人として一層大きく成長したいと考えています。そして、都留文科大学の学生として恥じることもないよう、また、社会に貢献できるよう日々努めることをここに誓い、新入生のことばといたします。



文学部 社会学科
環境・コミュニティ創造専攻
新入生代表 森 愛理

やわらかな風に包まれて、春の訪れが感じられるこの佳き日に、伝統ある都留文科大学の入学式に臨むことができ、大きな喜びを感じています。これも、母校の先生方のご指導や家族の支え、友人たちの励ましがあってこそだと思います。そのことを心にとめ、四年間の大学生活の中で、それぞれの目標に向かって成長していきたいと思っています。

東日本大震災以降、豪雨や地震などさまざまな自然災害が続く中で、多くの尊い命が奪われ、家族を失った方々もたくさんいます。その辛い日々を乗り越え、今も尚、復興を目指して努力している方々が数多くいる中で、私たちは家族と生活し、このように日々学ぶことができます。この一見当たり前に見える生活のありがたさや、日頃から助け合い支え合うことの大切さを改めて感じています。

今日の社会は、情報化やグローバル化の急速な進展によって、さまざまな情報や製品を手にするこ

ができ、以前に比べて豊かな生活を送れるようになりました。しかし、その一方で、新たな格差が生まれ、人と人との関わりや地域社会の結びつきも薄れてきています。また、若者の就職難や少子高齢化、環境や福祉など、難しい課題が山積しています。

さらに、イギリスのEU離脱やアメリカの新大統領就任をはじめとする大きな変化に伴って、世界全体の経済や政治情勢が不安定な状況に陥っており、私たちは予測しにくい社会を生きていかなければなりません。

だからこそ、大学生活の中で、社会の変化に対応できる知識と教養を身につけ、主体的に考える力や想像力・行動力を高めていかなければならないのだと思います。また、部活動やサークル活動にも積極的に取り組み、豊かな人間関係を築くとともに、自らを磨いて、社会に貢献できるよう、成長していきたいと考えています。

今ここにいる新入生は、それぞれ異なった将来の夢や目標を持ち、これからの大学生活に期待や不安を抱いていると思いますが、都留文科大学の学生として恥じることもないよう、恵まれた環境の中で積極的に物事に取り組んでいきたいと思っています。そして、全国から集まった仲間と切磋琢磨しながら、大学生活が実りあるものとなるよう努力していくことを決意し、新入生のことばといたします。

式 辞

都留文科大学学長 福田誠治



この度、晴れて都留文科大学に入学なさった皆さん、おめでとうございます。この良き日に、都留文科大学の教員と職員を代表して、お祝い申し上げます。また、この日を待ちわびていらっしゃるご家族の皆様にも、心よりお慶び申し上げます。家族の期待を担ってきたお子さんたちも、きっと感謝の思いを持っているものと推測いたします。今から、新入生の皆さんに大学で学ぶ心構えのようなものをお話いたしますが、ご家族の皆様にも今後ともご協力いただき、学びの支援ができれば幸いに思います。

英国がEU離脱を決め、米国では予想外にトランプ大統領が当選した現在、排除が優先され、国境を越えて協力するという展望を描くことが「困難な時代」になりました。しかし、いつかは時代の振り子は揺り戻すと思われます。

ちょうど今から160年も前、1854年に英国の作家チャールズ・ディケンズがHard Times、「困難な時代」という連載小説を書いています。その冒頭は、ある市議会議員が次のように演説しているところから始まります。

「さて、わたしが必要と考えているものは『事実』なのだ。ここにいる男女児童たちに、『事実』だけを教えてもらいたい。『事実』だけが人生で必要なのだ。他のことは一切植え付けてはいけない。(Now, what I want is, Facts. Facts alone are wanted in life. Plant nothing else, and root out everything else.)」

この男は、「空想などしてはいかん (You mustn't fancy)」 「決して空想などしてはならない (That's it! You are never to fancy)」 とも言いました。

教師たちもまた、子どもは口を開けたまま傾けられた小さな容器 (inclined plane of little vessels)、小さな水差し (the little pitchers) であり、そこに事実が満杯になるまで注ぎ込まれるもの (facts poured into them until they were full to the brim) と考えていました。

要するに、正解を詰め込むことが教育であって、その他の余地はなかったということです。

さて、その男、トマス・グラッドグラインド (Thomas Gradgrind) は、現実主義者 (A man of realities) で、事実と計算を重んじる人間 (A man of facts and calculations) と描かれていますが、彼は「人間性という荷物の重さや寸法を測って、正確に幾らになるかを言うことができるようにしている (ready to weigh and measure any parcel of human nature, and tell you exactly what it comes to)」と豪語していました。

「感性や愛情の育成に身を屈してはならない。決して不思議に思ったりしてはならないのだ。足し算、引き算、かけ算、割り算によって、とにかく全ての事柄に決着をつけよ。決して不思議に思ってはならないのだ。(without stooping to the cultivation of the sentiments and affections. Never Wonder. By means of addition, subtraction, multiplication, and division settle everything somehow, and never wonder.)」 とも言っていました。

チャールズ・ディケンズが描いたのは、義務教育制度が成立する直前、ちょうど英国で産業革命が進み、農業から産業 (industry) へと世の中が変化して子どもたちの生活が勉強一色に塗り替えられていく頃の時代です。まさに、子どもたちにとっては「困難な時代」の始まりです。学齢期という「子ども時代」が有史以来初めて設定されたからです。

しかし、当の父親であるトマス・グラッドグラインドは、自分の子育てに失敗します。娘も息子も、夢を持たなかったからです。

これより少し後、明治の日本では、我慢して努力する、時には「おまけします」という意味の「勉強」という漢語が、学校教育に適用され、studyの訳語となります。習ったことをしっかり覚えるという意味です。

時は下り、思索家のイワン・イリッチ (Ivan



Illich) が、今から 40 年ほど前、1970 年代のオイルショック前後に「脱学校 (deschooling)」と「脱病院」という思想を世に提起します。本来人間は一人ひとりが自分の健康のことを気にかけていたはずですが、ところが、病院という施設が作られ、資格を持った医師という専門家が治療し、それを国家が管理するという医療制度が整備されると、皮肉なことに人々は自分の体や心のことを考えなくなるというのです。病気になったら医者にかかればよいという思考に陥るからです。過度な労働さえ強いられ、健康そのものが収奪される (expropriation of health) と、イワン・イリッチは分析するのです。これは医療の限界 (limits to medicine) であり、医療の復讐 (medical nemesis) であるとイワン・イリッチは言っています。

同じ論理で、学校という施設が作られ、資格を持った教師という専門家が教育し、それを国家が管理するという学校教育制度が整えられると、逆に、子どもたちは自分のために自ら学ぼうとしなくなるわけです。勉強は先生が教えてくれるもの、その内容はテストで測られるものと思ひ込みます。自分の頭で考えたとしても、もし教科書に書いてあることと違う考えになった場合には、教科書を優先するようになります。

イワン・イリッチは指摘します。人々は学校に入学し、授業という「世話 (services)」を受けるようになると、想像力 (imagination) は地を這い、教えられたこと以外が見えなくなってしまう、と。生徒たちは、奪われるほどの創造性もなく (They do not have to be robbed of their creativity)、自分のことをするとか、自分自身になることを忘れてしまっている。学んでいない (they have unlearned to “do” their thing or “be” themselves) と。

1972 年の UNESCO フォール報告書は学習社会 (learning society) という言葉を初めて用いて伝統的な学校教育を「教える」場から「学ぶ」場へと変えよ

うとしました。この報告書には learning to be というタイトルがつけられていましたが、日本語訳では、『未来の学習』となっています。しかし、学習の目的は「自分自身になること (to be)」だという意味です。この言葉は、欧米では、デンマーク王子ハムレットの台詞 to be or not to be を連想させますから、「なるべきかならざるべきか。それが問題だ」つまり、自分は何になるべきかと、悩みながら自分で自分の生き方を選択していく他はないという意味になります。それこそが学習なのだと。

ですが、日本の教育はトマス・グラッドラインドの主張とあまり変わることなく続いています。1990 年代の話ですが、ある国際学力調査で答えの出ないナンセンスな問題を出したところ、日本の子どもたちは数字を見つけ出して、それを足したり、引いたり、掛けたり、割ったり、一生懸命解いていたそうです。

さて、皆さんは、今日から大学生です。学びが奪われているこの「困難な時代」に、自らの学びをぜひ取り戻して欲しいと思います。疑問を持ち、想像し、探究する学びを求めてください。また、4 年間かけてじっくりと自分の人生を振り返り、かつこれからの人生を展望しながら学んで欲しいと思います。それを都留文科大学が応援していきます。頭の中に人生という地図を描き、探究する力、学び続ける力をぜひ伸ばしていただくことを願って、お祝いの言葉といたします。



センター改革

本学には、学科を越えて全学的に活動する地域交流研究センター、教職支援センター、情報センター、保健センターなどがあります。大学が法人化されて以降、このセンターには専任教員や特任教員が配置されて研究や教育の質、学生へのサービスを向上させてきました。さらに、昨年7月から本格的にセンターの見直しを行ってきました。

国際交流センターは、本学の語学教育を担い、学生の語学力を向上させながら、本学から留学生の送り出しを担当してきました。また、留学生の受け入れを担当しながら、留学生向けの日本語教育も行ってきました。しかし、担当する分野が広すぎるので、日本語も含めた語学教育研究センターを国際交流センターから分離し、本学の学生のための語学教育を担当していただくことにしました。早速にまず、英語教育を改革します。受講生のクラスサイズを小さくし、科目には4技能か2技能かを明記し、授業には受講生の学科を考

慮してテーマ性を持たせます。また、政府の方針に合わせてCEFR(セファール)という国際標準の評価を使うことを考えています。

入学センターは、2020(平成32)年に新設される大学入学共通テストに対応します。入試だけでなく、高大接続にも配慮しながら、高校と大学が共同して若者の進路選択を支援する活動に展開していけば幸いです。山梨の都留の地に大学生を集めるだけの魅力を保ち、若者にアピールし続けることが期待されます。

共通教育センターは、来年度新設になります。アカデミック・スキルズなど初年次教育や、全学共通の科目を扱うことになります。大学が専門性や就職率で評価されがちな今日、大学の入り口のみならず大学教育全体を見渡して学問研究の意義を問い直す機会を作り出せたらよいと考えています。

(学長 福田誠治)



入学センター長
柳 宏

今年度新たに入学センターが設立されました。その目的は、本学のアドミッション・ポリシーに応じた優れた入学者の確保及び入学志願者の開拓のための方策の策定並びに入学試験を適性の実施するための業務を行い、入学者選抜の充実に資することです。この目的達成のために行う主な業務は、入学者選抜の企画立案、学生募集、大学説明会や高校訪問・進学相談、アドミッション・ポリシーの周知及び広報活動、出前講座などの高大接続教育等々です。

今後18歳人口が減少し、これまでのように優れた入学者を確保して

いくことはかなりの困難が予想されます。本学としては世の中のニーズに応じた教育と、優秀な人材輩出のための様々な改革は言うまでもありません。一方、受験生の志望大学決定理由をみると「大学の知名度」「入試難易度」「就職実績」等が上位を占めています。

入学センターはこれら課題について、入試改革をはじめ高校訪問や出前講義、進学相談等の丁寧な対応を行い、受験生の志望大学決定のための環境を整え、優秀な人材確保に努力していきます。

センター体制の再編成

入学センター

入学センター運営委員会

- ・センターの管理運営に関すること。
- ・センターの業務に関すること。

連絡調整



入試管理委員会

- ・入学試験の実施、運営、管理に関すること。



連絡調整

入試選考委員会

- ・入試の選抜、選考に関すること。

国際交流センター・語学教育センター

国際交流センター

留学生の受け入れ・送り出し

語学教育センター

(JASTを含め)英語で日本語や
日本文化を教える
共通語学(日本語、英語等)



語学教育センター長
茂木 秀昭

今年度より語学教育センターが独立することになりました。それを機に、日本語教育も移り、来年度から、日本語ができない留学生も受け入れられるように、日本語の初級講座も開設する予定です。

グローバル化の進展に伴い、外国語でコミュニケーションをとる必要性も増大しています。そのため、外国語教育もより実践的なコミュニケーション力を養成する方向へと改革していきたいと考えています。特に英語教育に関しては、専任教員を充実し、30名以下のクラスサイズ

にし、学科の専門性にリンクさせたテーマを元に、4技能の訓練をおこない、最終的には英語でプレゼンテーションなどができるような教育にしていきたいと考えています。

外国語が得意でない学生にも、苦手意識を払拭し、達成感をもたせ、社会に出てからも外国語を活かして活躍できるように、基礎力を身につけ、生涯にわたって外国語を学び続ける動機付けとなるような教育ができる体制を整えていきたいと願っています。



初等教育学科 教授
加 藤 優

「学び」の基礎を支える

今春より初等教育学科に着任しました、加藤 優です。3月まで埼玉県立大学で教鞭をとっていました。大学の性格上、体育の教員養成だけでなく、高齢者の介護予防事業、転倒予防体操、健康教育、野外活動など多方面で指導していました。前任校に赴任する前は、東京の筑波大学附属小学校で12年間、子どもたちの教育とともに、体育のモデル授業を展開し現場教員のための指導もしていました。幅広い指導のなかで気づいたのは、対象者の「学び」をいかに導き出せるかということでした。

都留文科大学は、初等教育を基盤にたくさんの教員を輩出している大学です。小学校の教育は生涯学習に向けた「学び」の基礎を培う場所だと考えます。「学び」は年齢とともに広がり深化します。教育現場では、今、この「学び」を支えられる教員が求められていると感じます。そのための教員養成に私のこれまでの経験を活かしたいと思います。よろしくお願いいたします。

就任のあいさつ

今年度より開設の特別支援学校教職課程で病弱教育を担当しております齊藤淑子と申します。

山梨で生まれ育った私にとって、故郷の地で、教師を目指す学生さんたちと共に病気の子どもへの理解を深める教育・研究活動に取り組めることは、とてもうれしく、光栄なことだと思っています。病弱教育は、それぞれの自治体によって学校の設置や制度の運用が異なるのでイメージをつかみにくい領域ですが、学生さんたちから「病弱教育について少しずつイメージを持つことができた。」「『病

弱』といっても様々なタイプの子どものいて、一人ひとりがいろいろな困難から生まれるストレスや不安と向き合っているのだと思った。」「教師として病いを抱える子どもたちの模索と探求のプロセスにきちんと向き合い寄り添っていけるようになりたい。」という感想が寄せられ、とても頼もしく感じています。共に学んでいきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



初等教育学科 特任教授
齊 藤 淑 子

特別支援教育とともに



初等教育学科 特任教授
原 まゆみ

今年度から初等教育学科に開設された特別支援学校教職課程で教員養成にあたることになりました。専門分野は知的障害教育実践研究、発達障害者支援などです。山梨県の特別支援学校教員として実践づくり、学校経営、教育行政などに携わり、1979年の養護学校義務制スタートから今日に至る障害児教育の発展、充実の歴史を体験してきました。

近年、特別支援教育の対象者が増加し、教員の専門性向上が大きな課題となっています。本学の学生さんが特別支援教育について問題意識を深め実践力を蓄え

て、学校現場にはばたいてくださることを期待して後進の育成に当たりたいと思います。

また発達障害等のある子どもたちを対象とした「キャリアデザインワーク」に取り組んでいます。地域の学校の先生方、福祉関係の専門家、保護者と連携し、困難を抱えた子どもの「学校から社会への移行」について研究するプログラムです。特別支援教育の課題をとともに考えていきたいと思っています。



国文学科 特任准教授
小石川正文

縁うれしき ～城下町をながめながら

国文学科に着任しました小石川正文です。国語教育学を担当します。学部、大学院では国語学が主専攻でしたが、それ以上の期間、国語教育の実践に関わってきました。

かつての恩師の授業風景の1コマー学生の出身地を旧国名で、次いで、その地ゆかりの作家を必ず訊かれました。文大も全国から学生の集う場所、刺激しあい、いい出会いをしてほしいと願っています。その昔、早稲田に出講の島村抱月は休講が多く、授業のあるときだけ、「出講」掲示が出たといいます。今日では考えら

れないことですが、この言葉、この行為自体にユーモアを感じます。話してくれた恩師は紅野敏郎先生（近代文学）です。

教職にあったため、実践と経験を伝えていくことが、特任教員の責務・使命と自覚し、自分がすべきこと、自分でなければできないことを明確にしていけます。研究室では秋元三代の城下町を眺める日々、恵まれた環境の下、学生たち、先生方と一緒に考究すべく、愚直に頑張りたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

学生に自ら考えてきたことを伝えられる喜びを胸に

今年度、社会学科に着任しました西尾理です。伝統ある都留文科大学に採用されたことは、驚きとともに感謝の気持ちで一杯です。

昨年度まで33年間、神奈川県立高校、東京都立高校に社会科教師として勤めていました。その間、全日制普通科高校、職業高校、定時制、特色のある高校など様々な制度や生徒のいる学校で経験を積んできました。その間、さまざまな研究会や学校の公開研究会に顔を出し、研鑽に努めてきました。また大学院の博士課程にも進み、仕事をしながら研究を行っ

てきました。研究や実践を続けてきた思いは、自分が、あまり勉強ができなかったので、社会科の授業を通して、わかりやすく、生徒に興味の持てる授業の追求です。

学生には、ただ自分の研究成果を教えるのではなく、また経験のみを伝えるのでもなく、その実戦の背景や理論、構造まで踏み込んで、学生自身が自主的に学んでいけるような授業に努めていこうと思っています。



社会学科 教授
西尾 理

「地域に貢献する大学」の一員として



社会学科 教授
樋口 雄人

2017年4月から社会学科の憲法担当教員を務めている樋口雄人です。本学着任前は、富山県にある法学部のみの小さな単科大学に6年間勤務しておりましたが、地方にある大学という点では同じですが、この大学の規模、とりわけキャンパスを闊歩している学生たちの数と活気ある姿に日々驚かされております。地方の衰退が言われて久しい中で、これほど元気な地方大学が存在していることに、将来への明るい希望を見出すとともに、この大学で働ける喜びを痛感致しております。

本学のような地方大学は、少子化が進む状況において今後も存続してゆくために、なぜその地にキャンパスを置いているのかという存在意義を、地域貢献という形で証明する必要があります。本学の学生は、その多くが都留市外・山梨県外の出身ですが、彼らがここで過ごす4年間、積極的に外に出て地域の人々と交わり何かの役に立つことを通して彼ら自身が成長し、そして卒業後は故郷に戻ってその地の発展に貢献する、そうした形で本学も地域に貢献する、そのお手伝いをこれからできればと願っております。



社会学科 准教授
松平 好人

就任のあいさつ

今春より着任いたしました、松平好人（まつだいら よしと）です。よろしくお願い致します。みなさんにご指導を頂きながら、近い将来に社会や地域に資する人材となる学生の育成に精進して参ります。

専門は、経営学の中の組織論、知識経営論です。前者は「組織の力を大きくするにはどうのようにしたらよいのか」、後者は「新しい製品やサービスはどのようなプロセスを経て創造されるのか」を大きな問題意識としています。現在は、中小企業により創出されたイノベーショ

ンがいかにして普及していくのか、というテーマに取り組んでいます。

学問の各領域は一見独立しているように見えて、実はつながっているの、自らの関心を狭く限定することなく、つながりを意識し、他分野の知見を学び活かしながら研究を進めることを大事にしています。出発点が何であっても、「筋道を立てて理詰めで考える」との姿勢を貫き、教育・研究に取り組んでいきたいと考えております。

就任のあいさつ

2017年4月より比較文化学科に就任いたしました齊藤みどりです。出身は山口県と島根県の県境にある山間の限界集落です。小学校は全校生徒数8人、同級生1人という環境で育ち、そのあと海外に姉妹校を持つ東京の私立学校に進学し、人生の約3分の1を海外で過ごしました。都留の景色を見るにつけ、懐かしいふるさとに帰ってきたようで、毎日楽しく通勤しています。

専門は英語圏・仏語圏のカリブ文学とポストコロニアル批評で、特にカリブ出身でイギリスに移り住んだ作家の研究をしてきました。長い留学生活の間、慣れ

ない言語と環境に格闘するなかで、学校の授業では教わることの少ない、ヨーロッパの影の部分、特に移民たちの生活に興味をもったからです。

2011年の東日本大震災と福島原発の事故後からは、田舎と都市、周縁と中心、自然と文化の問題に関心を持つようになりました。というのもこのような二極的な対立への問いはポストコロニアルにも通じているからです。面倒なことを福島に押し付けてしまった都心の一市民として、身近なポストコロニアル的な状況にも目を向けていきたいと考えています。



比較文化学科 准教授
齊藤みどり

世界に羽ばたく教育者の育成に向けて



国際教育学科 教授
原 和久

2017年4月、国際教育学科に着任いたしました原和久と申します。専門は、国際教育と国際バカロレア（IB）教育です。米国中西部で日本語教育に4年、日本の国際学校でIB教育に11年携わった後、2007年よりニュージーランドにあるオークランド工科大学教育学部博士課程に在籍し4年半国際バカロレアの現地調査を行いました。また、帰国後は、東大阪市の公立小学校長を5年間務め、先生方と共に様々な教育実践に取り組みしました。この度、担当することになりました国際教育関連の講義と研究は、これ

までに行った教育実践や調査・研究、また管理職としての経験が十二分に活かせる仕事なのではないかと思っています。

これから世界に向けて羽ばたこうとしている学生たちを応援できるのはこの上ない喜びです。世界のどこに行っても、子どもたちを深く理解し、そっと寄り添い、仲間と力を合わせて前向きに課題に取り組むことのできるグローバルエデュケーターの育成に向けて、この自然豊かな都留文の地で研究・教育活動に励みたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



国際教育学科 教授
森川 鈴子

文大に着任するにあたって

新設学科設置に伴い、一教授として就任致しました。15年間、テニユア（終身在職権）を持った准教授としてシカゴの一番犯罪率の高いと言われるサウス・サイドで、教育を専門とする公立の大学で歴史を教えてきました。生涯教育や第二の人生をと考えて教育を求めている年配の黒人、ヒスパニック系やアラブ系アメリカ人の学生が主の大学で、日本人でありながら、アメリカ人にアメリカ史やアメリカ民族学などを教えるのは大きなチャレンジでしたが、大変意義深い経験となりました。在米中は、アフリカ、ア

メリカ大陸など多くの国を旅し、サバティカルでは1学期間、研究の傍らカリブ海のプエルト・リコの大学で日本語と文化を教えました。本学着任の為、20数年ぶりの日本帰国となり、言語を含め、逆カルチャーショックを受けつつ慣れない毎日を送っておりますが、どうぞこれからもよろしくお願い致します。

就任のあいさつ

国際教育学科講師となりました前島礼子です。専門はアッシリア学で、主な研究テーマは、紀元前7世紀ごろに栄えたメソポタミア北部のアッシリア帝国における文化と政治との関係です。現在はウィーン大学哲学文化学部、東洋学研究所の博士候補生として、帝都ニネヴェにあった王宮図書館の政治性について研究しています。同時に、この王立図書館がアッシリア学上重要な発見とされることから、19世紀にはじまるアッシリア学の学問史についても研究しています。さらに、日本で14年間小中高等学校の社

会科教師をしており、前任校ではIBの指導もしていたことから、IBが掲げる「グローバル」教育と「ローカル」教育との関係性にも注目しており、現在は市民性を切り口に、ドイツ・オーストリアの現地校とIB校との比較研究にも取り組んでおります。いろいろと多岐にわたっていますが、共通するテーマは知と権力との関係性です。どうぞよろしくお願い致します。



国際教育学科 講師
前島 礼子

教師自身が問い続け、学び続けること



国際教育学科 講師
山辺 恵理子

国際教育学科に着任いたしました、山辺と申します。専門は教育の倫理、教師教育学で、主に教師のリフレクションについて研究しています。

学校では「振り返り」がよく用いられます。アメリカの教育学者ジョン・デューイが主著『民主主義と教育』（1916年）の中で「思考という要素をなんら含まないでは、意味を持つ経験はあり得ない」と語った通り、子どもに活動や経験をさせることはとても重要である一方で、その活動や経験を振り返り、意味づけをすることで、「意味を持つ経験」に昇華さ

せることもまた、極めて重要です。リフレクションとは、こうして経験を意味のあるものに昇華させる営みを指します。

では、子どもにリフレクションをさせたいと願う教師自身は、十分に自身の教育活動をリフレクションすることができているでしょうか？ こうしたことを問いかけながら、卒業後も学び続けられる学生・教師の育成を目指します。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



国際教育学科 特任講師

James Henderson

I was born and raised in the world's second largest French-speaking city: Montreal, Canada. In high school, thanks to Herman Hesse, and Emerson the transcendentalist, I developed a keen passion for Eastern religions, mysticism, philosophy, psychotherapy, psychology, and sociology, and feverishly devoured books on those subjects in my free time. However, my formal studies were in European history and literature. Though historians can always change the path they are on, at some stage they have to decide whether or not to devote themselves entirely to research, and live in a vault stacked with

books, or choose a less cloistered life, and teach. I opted for the latter.

Apart from a European history class that I developed and taught for 9 years at the recently lamented Bunka Gakuin, I have spent the last 22 years teaching English to Japanese ranging in age from five to ninety. After 12 years as a part-timer in the Comparative Cultures Department at Tsuru, I have been enlisted to prepare Global Education Department students for a six-month stay in Europe. I sure hope it works out smoothly.

文大に着任するにあたり

この度、情報センターの専任教員として着任しました相澤崇と申します。3月までは、琉球大学教育学部の小学校コースに籍をおき、情報教育や教育学に関する授業を担当しておりました。また、社会貢献として文部科学省「学びの推進プロジェクト（ICT活用推進コース）」や総務省「ドリームスクール推進事業」等に携わり、学校教育におけるICT活用普及モデルの開発や先駆的なICTの利用方法に関して実証研究を行ってまいりました。本学においても引き続き、学生の皆さんに対する情報リテラシー育成や

社会貢献に関する仕事に関わっていく所存です。

ところで、次期学習指導要領では、社会の情報化に対応するために、小学校におけるプログラミング教育が必修化され、授業における効果的なICTの活用が求められております。大学の授業においても、学生の皆さんが実践力を身につけられるように努めていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



情報センター 准教授

相澤 崇

文大に着任するにあたって



語学教育センター 講師

Delgrego, Nicholas

2017年より語学教育センターの専任講師として着任いたしましたニコラス・デルグレゴです。私はアメリカのペンシルバニア州フィラデルフィア出身で、ペンシルバニア州立大学を卒業しています。初めて来日したのは、大学生のときに関西外国語大学の交換留学プログラムに参加したときです。その後、アメリカに戻り母校で修士号を取得。外国青年招致事業であるJETプログラムの英語教師として再来日し、佐賀県の中学校に赴任しました。それから10年ちかく、ずっと日本に在住しています。JETプログラムが終わった後は、名古屋外国語大学で講師を勤めたあと、早稲田大

学大学院で教育学について学び、昨年まで桜美林大学で講師をしていました。

私は、前任の大学でライティングセンターを立ち上げた実績があり、学生たちの英語力が向上していく姿を目の当たりにしました。都留文科大学でも将来、同センターを設立し、皆さんの英語力向上のサポートをしたいと考えています。

都留文科大学の学生は優秀で、毎日の授業が楽しみです。私の趣味は筋トレと旅行なのですが、そういった話題についても皆さんとお話したいですね。もし私をキャンパスで見かけたら、気軽に声をかけてください。

私は2016年4月から約1年間、University of Auckland (New Zealand) に客員研究員として滞在し、社会的認知や心理測定学の研究に取り組んできました。

社会的認知とは、“社会的存在である他人や自分をどのように理解するのか”ということを実験や調査によって明らかにしていく分野なのですが、この学外研究では潜在的自己認知の研究に取り組んできました。簡単にいってしまえば、“自分では気づいていない自分自身”あるいは“気づいてはいるけど、他人に知られたくない自分”のことです。当然ながら、日本の心理学研究において王道ともいえるアンケート調査では、潜在的自己認知を数値データとして浮かび上がらせることはできません。また、かつて一世を風靡したロールシャッハなどの投影法はその妥当性や信頼性に不備があるので、使い

物になりません。そこで1990年頃に開発され、近年洗練されてきた潜在連合テスト (Implicit Association Test; IAT) という技法を使って潜在的自己認知を測定するのですが、残念ながら子ども用の IAT はありませんでした。ですから、今回の学外研究ではその開発に取り組んできました。あちらでは試験的に何人かの子どもに実施してきたのですが、統計的分析に耐えうるだけのサンプルは確保できていません。今後も引き続き子どもの潜在的自己認知の測定および研究を行っていきたいと思います。

また、心理測定学についても大変多くのことを学んでまいりました。統計学科の講義にもぐりこんだり (意外にバレませんし、バレても歓迎されました)、現地の研究者と交流したりしながら、項目反応理論 (Item Response Theory; IRT) の理論や分析方法を (まだ不完全ながら)



学外研究報告書

初等教育学科 教授 市原 学

習得してきました。IRT を使っていろいろなテスト (学力テスト、心理テスト) の分析を試みたのですが、今まで誰も知らなかったテストの素性 (精度、有用性) が明らかになって面白いと思うと同時に、ちょっとおそろしくもなりました。日本では入試、卒論、採用試験、資格試験など人生の節目には必ずといっていいほどテストが実施されます。テストは人の人生を左右しかねないほどに大きな影響力を持っている (ハイステークス・テスト) わけですから、IRT をはじめとするテスト理論によってテストの素性を明らかにして、受験者やその関係者に対して説明責任を果たせるよう備えておくべきでしょう。

最後に、学部・学科改編の最中に学外研究の機会をいただけたことにここより感謝とお詫びを申し上げます (苦笑)。



Clock Tower

このたびは、大変貴重な学外研究の一年間をいただき、みなさまに心から感謝いたします。特に初等教育学科の先生方には、特別支援免許課程認定、新学科準備など近年にない忙しい年度の中でお時間をいただき、ありがとうございました。

私は、この貴重な機会に、あっという間に駆け抜けてきた30年を超える臨床心理士としての自分自身のありようを振り返り、これからの立ち位置を再確認したい思いで、家族をほったらかして神戸で一年を過ごしました。神戸には、設立当初から関わっている日本精神分析的自己心理学協会の訓練研究所があります。その正規訓練生として初心に戻り、授業、訓練面接、スーパーヴィジョンなどを受けてきました。さまざまな現場でさまざまな困難を抱える方々にお会いし一緒にあがく中で、よく言えば臨機応変に、でも実は全くの自分の思い込みや決めつけで動



ハーバーランド 神戸港震災メモリアルパーク

いてきたことを改めて痛感してきました。かじりっぱなしの知識や振り返ることのない経験は恐ろしいものです。歳を経るごとに歪んだ確信が生まれ、物事が「わかる」ような気になっていきます。援助という微妙な力関係が生じやす



本当に大切なことを 忘れないために

初等教育学科 教授 筒井潤子

いなかにおいて、それがいかに恐ろしいことを自分に言い聞かせてきたつもりではありましたが、とんでもありませんでした。初っ端から自己流のオンパレード。自分の言動の意味を問われても「直感的に」と答えたくなる自分にまったく自己嫌悪でした。

この30年なにをしてきたんだろうと落ち込みそうな私を、神戸の街はまさに「暖かく包んで」くれました。船の汽笛と立ち退きに抗して生き残っている商店街の音楽が聞こえる部屋で、散歩コースを考えるのはとても嬉しいひと時でした。海と街と山。懐かしい関西弁と純喫茶。徒歩30分圏内にすべてがそろい、住んでいる町が手のひらに乗っているという感覚さえ沸き起こりました。ハーバーランドの一角には、阪神淡路大震災で破壊された港の岸壁がそのままに残されています。観覧車を背景に斜めに倒れかけた街灯は、この街の20数年の気が遠く

なるような歩みを思い起こさせます。9月に訪れた福島の前帰還困難区域、10月に訪れた沖縄県高江の森。人間は本能的に自らを守り支えるものを知っているのかもしれませんが。見慣れた風景、いつもの音、匂い、風の肌触り、そしてそこに生きる人々の暮らし。そういったものから何気ない、しかし大きな力をもらいながら、私たちは生きています。

神戸の街で初心に戻りながら、人はどのように傷つくのか、そして人が生きることを支えるものは何かをさまざまな感覚を通して感じ考えてきた一年でした。理論的にシャープになって帰ってくる予定でしたが、その夢は完全に破れました。でもまあ、子どもたちや親御さん、先生方とともにかくじっくり会ってこうと改めて覚悟できたことは大きな収穫だったと感じています。今後ともよろしくお願いいたします。

学科も大学も改革に向けて業務が増えて大変なこの時期に、28年度後期半年間の学外研究の機会をいただけたこと、皆様のサポートあつてのことと感謝申し上げます。

私の研究領域は、前回の学外研究時(2001年)にインドのデリー大学の客員教授としてインドに滞在したことが縁で、オーソドックスな英文学からインド英語文学を中心にフィールドワークを行う研究に代わってきました。今回私にとって最後の学外研究をどこにするかについて、長期間家を留守にできないという個人的事情もあり、また、印パ分離独立文学についての15年間の研究をまとめた本を出版し燃え尽きてしまったということもあり迷っている中で、ご縁がありカリフォルニア大学バークレー校ジェンダー学研究科のBeatrice Bain 研究グループ所属客員研究員として受け入れていただくことになりました。

10月1日から1か月半という短い滞在期間(一度大学の用事で帰国)であったため、寮や部屋を借りることができず、しばらくホテルを転々とし落ち着かない生活でしたが、それでもここでの研究生活は非常に有意義でした。滞在期間が短いということで研究会での最初の発表者(ジェンダー研究の視点から見たR. タゴールの女性の身体表象について)に指名され、政治学や社会学など研究領域の異なる研究者からの思いがけない鋭いご指摘を頂き、研究意欲を掻き立てられたことは有難く貴重な経験になりました。

再入国した日はアメリカ大統領選挙結果がでた日であり、思いがけない結果に大学全体が衝撃を受けた日でした。全教職員に向けて冷静な対応を呼びかける学長からの異例のメールが届き、学生たちが泣き崩れ授業が成り立たないというクラスも少なくなかったようです。私はい



学外研究報告

ートランブショックに揺れるバークレーにて

英文学科 教授 大 平 栄 子

くつかの授業を参観させていただいていましたが、教員も学生も多様な国々からの移民が多く、中には親が不法移民であるため家族が引き裂かれるという不安におびえていた学生もいました。さっそく、学生支援担当者が集会を開き、そこに多くの教員が参加し、自分の性自認やこの移民であるかについて語り、学生の権利を守ることを約束するとの決意表明に学生が歓呼



の声を上げていましたが、しばらく大学全体は異様に暗い日々が続きました。

他の活動としましては、国際人文学会(ハワイ)での研究発表(20世紀初頭の日本英語文学について)や、インドのデリー大学 Janki Devi Memorial College のセミナーでインド英語文学について講義する機会がありましたが、インドの学生が文学批評理論にもかなり精通し優秀であることを知り冷汗をかくたりもしました。また、長年の友人でデリー大学の学部長を定年退職されたばかりのマラシュリ・ラル教授宅で開かれた研究会(国際学会にも匹敵するほどの英語文学研究の第一人者たちがご参加)や、インド文学アカデミー主催の文学祭にも招待され、多くの研究者たちと意見交換ができ研究意欲を掻き立てていただき、学外研究制度の重要性を再認識した次第です。

◀インド文学アカデミー主催の文学祭にて

2016 年度後期に在外研究期間を得て、米国ロスアンゼルスにある南カリフォルニア大学にてその大部分を過ごすこととなった。もちろん米国でのコリア研究を知りたいということはあったが、在米韓国人の暮らしを調べることに最も関心があった。在米韓国人は市民権、永住権を持つ者だけでも 160 万人を超え、センサスでとらえられない者たちも含めればおそらくは 200 万人を超えており、中国にいる朝鮮族 (190 万人) を超えて韓国朝鮮系のエスニック集団としては最大規模となりつつあるばかりでなく、世界銀行総裁を輩出するなど政治経済的な力は注目される。解放後韓国から中産階級の人々がより一層の上昇を求めて移民した人々が多いことも特徴であり、在日韓国朝鮮人の未来を考える上でぜひ肌で知りたかったのである。

宿舎はコリアタウンの真ん中のホテル風の宿に定めた。かつて黒人暴動の標的とされ、自

身たちで銃を持ち自衛したタウンはすでにその被害に気づかないほどきれいな町並みとなっていた。このホテルの韓国系のオーナー夫妻は移民としてアルゼンチンで 15 年ほど暮らし、米国に再移住し 20 年ほど経過したとのことで、英語はあまりできないが、スペイン語が堪能で、米国にいるラティーノたちを雇用して店の経営をしてもいた。私が入居した翌日にアルゼンチンから韓国系の友人夫婦がやってきたが、会話の内容は教会に関することが多く新鮮であった。

ロスアンゼルスでは二重言語教育として英語と韓国語が学習できるというのが、実際は韓国語科目は 1 日に 1 時間ほどしかないにもかかわらず、韓国語がネイティブ並にできる人も多くいた。彼 (女) らは主に教会内で韓国語学習をすることができ、時には母国語留学もかなりしているとのことである。教会の圧倒的な存在感



在外研究を終えて

比較文化学科 教授 邊 英 浩

は、日系、中国系と全く異なる点であった。

ほかのマイノリティーとの関係では、黒人、ラティーノとの相互関係を肌で感じることができた。まず移民した韓国人は黒人地区に暮らし商売をしたが、それは地価が安いこと、現金で買ってくれるため消費税を払わなくていいことなどのためであった。しかし子供は黒人の学校に通い相当大変な思いをしたようで、まさに体を張って生き抜いてきたのである。また中南米からの出稼ぎ、移民労働者たちは、法定の最低賃金以下で働いてくれ、将来は米国で 1 億人を超えるというほどの多数になるという。彼らは不便な住居環境にもかかわらず、本当によく働き勤勉である。韓国人の経営する店ではその従業員の多数をラティーノたちが占めており、一部は韓国語を理解できる人もいた。外から見ていた米国のヒスパニック問題とは何か、コリアンとの関係で初めてよく理解できたのである。

トランプ政権の誕生で今マイノリティーたちは不安におそわれているが、おそらくこの流れは変えることができないであろう。様々なことを学び得た貴重な機会であった。



南カリフォルニア大学



2016年度後期比較文化学会主催講演会

『若者のリアル』

開催：平成29年1月20日(金)

講演者：仁藤夢乃氏

本学の教員志望者やジェンダー学に関心のある学生にとって、日本の少女たちの支援を行う仁藤さんの活動を知ることが、一つの問題提起になると考え開催した。

当日はスライドと仁藤さんが出演した番組を映しながらわかりやすく、ご自身の活動、少女たちの現状、日本の制度を説明してくださった。Colaboが支援している少女たちは悲しい境遇に置かれていることが多いが、仁藤さんと接するうちに前向きになってくれるようだった。日本の現実として、生きづらい若者は多い。虐待件数は2015年に10万3千件を超えていたり、10代の自殺者は年間500人を超えることなど、具体的な数字は私たちを驚かせた。仁藤さんは居場所が無い高校生を「難民高校生」と呼ぶ。仁藤さんは恩師に会って自分が変わったこと、子どもたちが頼れる大人を持つことが重要だと語る。学会事務局員を含め30人近くの学生と先生方が講演を聞いた。図書館4階の学習室は満員になり、全員が興味深く話を聞いていたようだった。90分の講演のあと、質疑応答を15分程度行い、終了後は仁藤さんと直接話す時

間を設け、多くの人が感想を交換しあった。仁藤さんは「女性だけではなく、男性も熱心に聞かれ感想を教えていただいた。この活動に関心を持ってくれる子がたくさんいて嬉しい。」などと言われた。

多くの学生から「先進国の日本で、多くの少女たちが悲しい現状に置かれている事実を知らなかった。」という意見をもらった。メディアで報じる青少年の非行には当事者だけの問題ではなく、周りの大人、行政の制度にも責任がある。

Colaboは支援者や寄付を募集しているので、私たちが出来ることも

多い。周りに気になる青少年がいたら声をかけると共に、著書を渡してほしいと仁藤さんは訴える。今後も活動に注目して自分にも出来る支援をしたいと思う。ジェンダーに関する授業の中で、海外の少女の人身売買、売春、強制的な結婚などが取り上げられることが多いが、日本の少女たちにも目を向けてもらえるようになると講演を企画した意義がある。今後も有意義な学会活動を行っていききたい。ご来場いただいた皆さま、講師の仁藤さんに深く御礼申し上げます。

(比較文化学科4年 笹井加奈子)

講師紹介



仁藤夢乃 (にとう ゆめの)

1989年生まれ。中学生の頃から街を彷徨う生活を送り、その経験から自分や友人と同じ立場の少女たちを支援している。大学在学中から国際支援、被災地支援、高校生に目を向けた活動を始める。現在、「居場所のない高校生」や「搾取の対象になりやすい青少年」の問題を発信するために講演活動やメディア出演を精力的に行っている。2015年より、第30期東京都青少年問題協議会委員を務める。2016年に都内で主催した「私たちは『買われた』」展は話題を呼んだ。

○著書『難民高校生—絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル』(英治出版2013、筑摩書房2016)『女子高生の裏社会—「関係性の貧困」に生きる少女たち』(光文社新書2014)
公式HP <https://www.colabo-official.net/>

昨年度の就職状況を振り返って

副 学 長

(兼キャリア支援センター長) 新保 祐 司



本学の平成28年度就職状況(5月1日現在)を振り返ってみると、就職率は、96.9%で、昨年度の95.9%よりも1.0ポイントの増となりました。一方、文部科学省と厚生労働省による平成28年度就職状況調査(国公立大学から62校を抽出、こちらは4月1日時点)をみると、今春卒業した大学生の就職率は、97.6%で、6年連続で上昇しました。平成9年の統計開始以降、過去最高でした。これは、2年連続の記録更新です。文系・理系別では、文系は、97.3%でしたので、本学も平均的な数字となっていると思います。

本学では、726名の卒業生(前期卒業生を含む)を送り出しました。就職希望者は、619名でそのうち600名の就職が決まりました。就職率は、前述したように、96.9%でした。平成23年度から90%に回復しましたが、平成25年度が

93.3%、平成26年度が94.9%、平成27年度が95.9%、平成28年度が前述したように、96.9%で、上昇を続けています。

就職先の内訳をみると、教員(臨時採用を含む)は、公立学校と私立学校を合わせて、177名となり、昨年度の201名から24名減少しました。小学校が121名、中学校が30名、高等学校が12名、中高共通教員が4名、特別支援学校が3名、私立学校が7名となっています。公立学校では、北海道から沖縄まで、全国の多くの都道府県、市で採用されています。山梨県の32名を筆頭に、静岡県12名、神奈川県11名、長野県9名、埼玉県7名、相模原市の7名といったところが注目されます。

公務員は、78名と昨年の60名から大分増えました。地方公務員が75名、国家公務員が3名となっています。このところ、公務員の就職数が、順調に推移し

ています。

民間企業就職者は、昨年の344名から、345名と横ばいでした。内訳は、サービス業が140名、卸小売業が61名、金融保険業が40名、運輸・郵便業が25名、製造業が23名などとなっています。

さらに、大学院などへの進学者は、36名となっており、卒業生のうち、就職決定者と大学院等への進学者を合わせると、5年連続で8割を超えています。

以上、昨年度の就職・進学等の状況について簡単にまとめました。

このような、全体的には好調な就職率の中で、さらに重要なのは数字よりも、質の問題だと思います。キャリア支援センターでは、教員、公務員、企業のそれぞれの分野で、学生の皆さんの希望にかなう就職ができるように、今年度も様々な就職関連行事を通して支援してまいりますので、積極的に参加・活用してください。

平成29年3月卒業生 就職先一覧

初等教育学科

【企業】

エーバーグリーン廣基株式会社
グリーン・サポート・システムズ株式会社
こばんはうすくら
トナミ運輸 株式会社
株式会社 P I C
株式会社 エイチ・アイ・エス
株式会社 クスリのサンロード
株式会社 ニトリ
株式会社 マーキュリー
株式会社 レオパレス21
株式会社 ワークスアプリケーションズ
株式会社 阿波銀行
株式会社 解氏工芸貿易
株式会社 銀座リノアル
株式会社 秀英予備校
株式会社 富士薬品
株式会社 臨海セミナー
株式会社 エス・ティー・シー
株式会社 テクノアスカ
高崎信用金庫
山形県社会福祉事業団
社会福祉法人 コロロ学園
社会福祉法人 山梨県の 児童養護施設あ
いむ
社会福祉法人 誠信会
社会福祉法人 富士会
社会福祉法人 江寿会
大和ハウス工業 株式会社
大和証券 株式会社
桜谷川ホールディングス 株式会社
東武トップツアーズ 株式会社
独立行政法人 国立病院機構 東海北陸ブ
ループ

【教員】

北海道教育委員会
札幌市教育委員会
岩手県教育委員会
山形県教育委員会
福島県教育委員会
茨城県教育委員会
群馬県教育委員会
埼玉県教育委員会
千葉県教育委員会
東京都教育委員会
神奈川県教育委員会
川崎市教育委員会
相模原市教育委員会
新潟市教育委員会
富山県教育委員会

【私学】

石川県教育委員会
福井県教育委員会
山梨県教育委員会
長野県教育委員会
岐阜県教育委員会
静岡県教育委員会
静岡県教育委員会
愛知県教育委員会
三重県教育委員会
兵庫県教育委員会
神戸市教育委員会
和歌山県教育委員会
鳥取県教育委員会
島根県教育委員会
岡山県教育委員会
岡山市教育委員会
広島県教育委員会
広島県教育委員会
愛媛県教育委員会
鹿児島県教育委員会
沖縄県教育委員会

【公務員】

学校法人 真言宗 洛南学園 洛南高等学校付
属小学校
近畿大学付属小学校
北海道庁
茨城県庁
岡山県警察本部
兵庫県庁
山梨県警察本部
山形県警察本部
山形県立医科大学大学けん研究研
究所
新潟市役所
山梨県警察本部
伊勢市役所
名護市役所
京都府警察本部
静岡県庁

国文学科

【企業】

AIU 損害保険 株式会社
A P パートナース 株式会社
NPO 法人 FREE HELP 長田店
エヌ・ティ・ティ・システム開発 株式会社
カップ・クリエイト 株式会社
コンピュータマネジメント 株式会社
シュマルツ 株式会社

タマホーム 株式会社
なんと農業協同組合
ヒューマンシーン 株式会社
ヒリングスペースアジアス
モンネ・ルギ・ムック
医療法人 緑生会
学校法人 聖マリアンナ医科大学
株式会社 BANKAM わものや
株式会社 アイキューブ
株式会社 アイティ・コミュニケーションズ
株式会社 アクティブワーク
株式会社 ウエマツ
株式会社 エーツー
株式会社 エスエスワイ
株式会社 オギノ
株式会社 クワトロソリューションズ
株式会社 ゲオホールディングス
株式会社 ぜん

株式会社 デーリー東北新聞社
株式会社 ドリーム・ぼけっと
株式会社 トリドールホールディングス
株式会社 ナガタ
株式会社 ニチコミ
株式会社 ニトリ
株式会社 はせがわ酒店
株式会社 バロー
株式会社 フロンコピリー
株式会社 マイクロメイツ
株式会社 マッシュ
株式会社 メガネット
株式会社 ライズデザインファクトリー
株式会社 ラネット
株式会社 リキッド
株式会社 監査書店
株式会社 山恵
株式会社 小市能堂
株式会社 星野リゾート
株式会社 静岡中央銀行
株式会社 田出版
株式会社 北陸銀行
株式会社 臨海セミナー
株式会社 コバヤシ
株式会社 ソラリス・ソフトウェア・サービス
株式会社 テクノプロ・コンストラクション
株式会社 日本アーク
株式会社 日産アーク
株式会社 新若手農業協同組合
深谷農工会館
生活協同組合コープながの
横浜ライフサービス 株式会社
大東建設 株式会社
中部薬品 株式会社
社のや 花乃庄
東京コンピュータサービス 株式会社
東京不動産管理 株式会社
日本郵便 株式会社
美装社図書製本 株式会社

富士新幸 株式会社
琉球銀行 株式会社

【教員】

北海道教育委員会
宮城県教育委員会
茨城県教育委員会
群馬県教育委員会
川崎市教育委員会
富山県教育委員会
山梨県教育委員会
静岡県教育委員会
和歌山県教育委員会
広島県教育委員会
愛媛県教育委員会
沖縄県教育委員会

【私学】

学校法人 共栄学園 京都共栄学園中学校・
高等学校
浜松修学舎 中学校・高等学校
ジャカルタ日本人学校
学校法人 川島学園 れいめい中学校・高等
学校

【公務員】

山梨県庁
伊達市役所
三鷹市役所
南アルプス市役所
岐阜市役所
大田原市役所
大月市役所
新潟県庁

英文学科

【企業】

ANA エアポートサービス 株式会社
ANA ホールディングス 株式会社
City Hill
K I S C O 株式会社
NCA Japan 株式会社
アルプス農業協同組合
イングリメント・ビー 株式会社
シミック 株式会社
ベルリッツ・ジャパン 株式会社
ルートイングループ
一般社団法人 休暇村徳島県
海南航空会社
楽天 株式会社
株式会社 J A L スカイ
株式会社 アイキューブ
株式会社 アクティンフオメーションサー
ビスアソシエーション
株式会社 アミティー

株式会社 ウエニ貿易
株式会社 エイチ・アイ・エス
株式会社 クロスフォー
株式会社 コークッキング
株式会社 こどもの森
株式会社 ジェイ・エス・エス
株式会社 セラヴィリゾート泉郷
株式会社 ビームス
株式会社 ふゅーじょんぷろだくと
株式会社 プライマリー
株式会社 みちのく銀行
株式会社 リビングライフ
株式会社 岡本工作機械製作所
株式会社 湖山亭 うぶや
株式会社 山梨放送
株式会社 昭和システムエンジニアリング
株式会社 松浦機械製作所
株式会社 星野リゾート
株式会社 日本保育サービス
株式会社 八十二銀行
株式会社 樋口商店
株式会社 富士レックホテル
株式会社 米田三越
株式会社 北陽銀行
株式会社 良品計画
株式会社 エクセル エクセルトラベル
株式会社 マイヤ
株式会社 西京銀行
株式会社 飛騨産業
株式会社 堀井新聞社
気山信用金庫
秋田信用金庫
静岡銀行
損害保険ジャパン日本興亜 株式会社
多摩川精機 株式会社
大和リビング 株式会社
大和証券 株式会社
長谷川ホールディングス 株式会社
長野信用金庫
日本郵便 株式会社
富士河口湖温泉郷 湖南荘
福岡水産物取引清算 株式会社

【教員】

北海道教育委員会
群馬県教育委員会
神奈川県教育委員会
山梨県教育委員会
長野県教育委員会
岐阜県教育委員会
静岡県教育委員会
愛知県教育委員会
三重県教育委員会
愛媛県教育委員会

「授業についての 学生アンケート」の結果から

FD 委員会委員長 平 野 耕 一



○授業アンケートについて

この稿では、2016 年度の「授業についての学生アンケート」の結果を総括します。「授業についての学生アンケート」は、前期末と後期末に授業の一部の時間を用いて学生がマークシートに回答する形式で行われています。

1. 授業アンケート実施率

表 1 は、授業アンケートを実施して頂いた教員の割合を示したものです。FD 委員会からの呼びかけもあり、ここ 4 年間で実施率が上がってきました。授業アンケートは、全ての授業担当者（専任・特任・非常勤講師）に必ず 1 科目以上の実施をお願いし

ています。今後は 100% を目指していききたいと思います。

2. 授業を履修した理由

表 2 は、授業アンケートのセクション A「この授業を履修した主な理由」の結果です。「授業の分野に興味があった」、「将来役立つと思った」のような積極的な理由も多いですが、「必修科目だった」、「この時間が空いていた」という消極的な理由も目立ちます。また大学では、授業で指定された教科書だけを用いるという消極的な方法ではなく、内容に関連して自ら複数の文献を探して読み進めていくという積極的な学習の姿勢が必要になってくると思います。

表 2 この授業を履修した
主な理由（2016 年度）

（複数回答可）

設 問	理 由	前期 (%)	後期 (%)
1.	必修科目だった	46.5	47.8
2.	シラバスを読んで興味を持った	13.4	14.4
3.	授業の分野に興味があった	15.8	15.0
4.	よい授業と聞いていた	3.7	4.0
5.	将来役立つと思った	10.2	8.5
6.	単位を取りやすいと思った	1.7	1.7
7.	この時間が空いていた	7.0	6.9
8.	無効回答	1.7	1.5

表 1 授業アンケート実施率

年度	2013 年度		2014 年度		2015 年度		2016 年度	
開講期	前期 (%)	後期 (%)	前期 (%)	後期 (%)	前期 (%)	後期 (%)	前期 (%)	後期 (%)
専 任 教 員	71.43	70.24	87.01	85.71	92.22	88.89	90.59	98.75
非 常 勤 講 師	45.92	52.87	50.16	58.62	62.90	61.48	68.40	69.23

表 3 経年変化（全体平均点）

項	設問文	2013年度		2014年度		2015年度		2016年度	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
B	あなた自身の授業への取り組みについて	セクション平均点							
1	あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。80%程度（3 回程度の欠席）を「普通」とし、5 段階で答えてください。	3.79	3.78	3.84	3.80	3.84	3.84	3.90	3.86
2	事前にシラバスを読み、授業の目的、目標、内容を理解して臨みましたか。	4.29	4.13	4.32	4.14	4.35	4.19	4.38	4.20
3	授業に出席したときは、授業に集中し、熱心に取り組みましたか。	3.73	3.78	3.80	3.79	3.79	3.84	3.84	3.83
4	この授業について、予習あるいは復習をしましたか。十分に行ったを 5、全く行わなかったを 1 とし、5～1 の範囲で答えてください。	4.02	4.01	4.06	4.01	4.04	4.05	4.10	4.09
5	授業の内容をよく理解できましたか。	3.07	3.10	3.11	3.13	3.15	3.20	3.21	3.23
C	授業の進め方について	セクション平均点							
8	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。	3.83	3.88	3.90	3.92	3.88	3.93	3.96	3.97
9	話し方（声の大きさや明瞭さなど）や板書は、わかりやすかったですか。	4.07	4.13	4.13	4.16	4.08	4.18	4.19	4.21
10	プリント、ビデオ、教科書など教材の使われ方は授業内容の理解を助けるものでしたか。	4.09	4.15	4.15	4.19	4.09	4.18	4.19	4.21
11	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。	4.07	4.13	4.14	4.17	4.10	4.20	4.21	4.22
D	授業環境について	セクション平均点							
12	クラスの学生数、教室の設備、備品などは適切な状態でしたか。	4.15	4.21	4.23	4.26	4.15	4.23	4.26	4.26
E	授業内容について	セクション平均点							
13	授業内容はわかりやすく整理されていましたか。	3.94	3.98	3.98	4.01	3.95	4.03	4.03	4.05
14	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.13	4.18	4.17	4.20	4.14	4.22	4.24	4.24
15	授業の内容・構成は、シラバスで書かれた目標に沿っていましたか。	4.10	4.18	4.17	4.22	4.14	4.23	4.22	4.26
16	授業のレベル（難易度）は適切でしたか。難しすぎたを 5、易しすぎたを 1 とし、5～1 の範囲で答えてください。	4.07	4.11	4.13	4.14	4.10	4.18	4.20	4.20
F	授業成果について	セクション平均点							
17	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え方、技能などを修得できましたか。	3.46	3.46	3.46	3.46	3.43	3.48	3.46	3.49
18	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。	4.14	4.22	4.20	4.25	4.18	4.26	4.25	4.28
19	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いますか。	4.11	4.20	4.18	4.23	4.16	4.24	4.22	4.27

3. 経年変化

表3は、最近4年間の全体平均点です。項目4の「予習・復習をしましたか」について、毎年、他の項目と比べて点数が低いです。授業の内容を定着させるためには予習・復習は不可欠です。特に予習に重点を置き授業前に疑問点を整理しておいて、授業中に質問して解決すると効果的です。但し、項目4の「予習・復習をしましたか」について、(対象の集団が変わっていくので正確な

統計ではないのですが)4年間で点数が少しずつ上がってきています。

4. 授業形態比較

表4は、「講義」、「外国語」、「実習・実験・実技」、「演習」の授業形態別の比較です。比較的、「実習・実験・実技」と「演習」の点数が高い傾向があるようです。

5. 学年比較

表5は、学年別の比較です。特

に1年生は、高校と大学の授業の違いに戸惑った人もいるかもしれません。授業についていけないなど困った時には、その科目の教員に“勉強の仕方”を聞いてみることをお勧めします。

○授業改善に向けて

今回の授業アンケートで、私も担当している授業について貴重な意見を頂きました。この声を基に授業を改善していきたいと思います。

表4 授業形態比較 (2016年度)

項	設問文	講義		外国語		実習・実験・実技		演習	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
B	あなた自身の授業への取り組みについて	3.83	3.79	4.06	3.94	4.09	4.06	4.10	4.11
1	あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。80%程度(3回程度の欠席)を「普通」とし、5段階で答えてください。	4.35	4.17	4.47	4.19	4.53	4.34	4.47	4.36
2	事前にシラバスを読み、授業の目的、目標、内容を理解して臨みましたか。	3.82	3.82	3.80	3.77	3.96	3.92	3.99	3.98
3	授業に出席したときは、授業に集中し、熱心に取り組みましたか。	4.01	3.99	4.24	4.14	4.47	4.46	4.34	4.46
4	この授業について、予習あるいは復習をしましたか。十分に行ったを5、全く行かなかったを1とし、5～1の範囲で答えてください。	3.08	3.11	3.74	3.66	3.19	3.34	3.51	3.40
5	授業の内容をよく理解できましたか。	3.89	3.88	4.03	3.97	4.29	4.26	4.17	4.35
C	授業の進め方について	4.15	4.15	4.22	4.20	4.40	4.36	4.34	4.47
8	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。	4.15	4.16	4.22	4.16	4.48	4.41	4.32	4.49
9	話し方(声の大きさや明瞭さなど)や板書は、わかりやすかったですか。	4.15	4.15	4.27	4.23	4.50	4.42	4.40	4.52
10	プリント、ビデオ、教科書など教材の使われ方は授業内容の理解を助けるものでしたか。	4.25	4.24	4.27	4.25	4.23	4.28	4.36	4.44
11	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。	4.04	4.06	4.13	4.17	4.39	4.34	4.29	4.44
D	授業環境について	4.12	4.10	4.40	4.37	4.41	4.44	4.49	4.45
12	クラスの学生数、教室の設備、備品などは適切な状態でしたか。	4.12	4.10	4.40	4.37	4.41	4.44	4.49	4.45
E	授業内容について	4.00	4.01	4.01	4.03	4.21	4.20	4.14	4.22
13	授業内容はわかりやすく整理されていましたか。	4.19	4.19	4.27	4.22	4.51	4.44	4.35	4.49
14	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.20	4.22	4.15	4.17	4.45	4.43	4.33	4.51
15	授業の内容・構成は、シラバスで書かれた目標に沿っていましたか。	4.16	4.16	4.18	4.19	4.40	4.34	4.37	4.41
16	授業のレベル(難易度)は適切でしたか。難しすぎたを5、易しすぎたを1とし、5～1の範囲で答えてください。	3.45	3.47	3.45	3.53	3.48	3.59	3.49	3.47
F	授業成果について	4.23	4.25	4.16	4.20	4.44	4.45	4.43	4.52
17	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え方、技能などを修得できましたか。	4.22	4.25	4.15	4.20	4.42	4.46	4.43	4.49
18	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。	4.22	4.24	4.08	4.15	4.37	4.40	4.39	4.52
19	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いますか。	4.24	4.25	4.24	4.24	4.52	4.49	4.47	4.56

表5 学年比較 (2016年度)

項	設問文	1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
B	あなた自身の授業への取り組みについて	3.94	3.90	3.91	3.85	3.85	3.82	3.74	3.83
1	あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。80%程度(3回程度の欠席)を「普通」とし、5段階で答えてください。	4.61	4.37	4.37	4.19	4.20	4.06	3.76	3.89
2	事前にシラバスを読み、授業の目的、目標、内容を理解して臨みましたか。	3.78	3.77	3.89	3.87	3.87	3.86	3.79	3.84
3	授業に出席したときは、授業に集中し、熱心に取り組みましたか。	4.15	4.14	4.07	4.04	4.03	4.05	4.07	4.18
4	この授業について、予習あるいは復習をしましたか。十分に行ったを5、全く行かなかったを1とし、5～1の範囲で答えてください。	3.19	3.25	3.25	3.24	3.20	3.20	3.11	3.16
5	授業の内容をよく理解できましたか。	3.97	3.98	3.95	3.93	3.93	3.95	3.98	4.06
C	授業の進め方について	4.16	4.21	4.22	4.20	4.17	4.18	4.21	4.27
8	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。	4.16	4.22	4.23	4.21	4.17	4.18	4.22	4.25
9	話し方(声の大きさや明瞭さなど)や板書は、わかりやすかったですか。	4.19	4.21	4.24	4.22	4.16	4.18	4.22	4.28
10	プリント、ビデオ、教科書など教材の使われ方は授業内容の理解を助けるものでしたか。	4.22	4.25	4.29	4.27	4.25	4.24	4.26	4.34
11	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。	4.06	4.13	4.13	4.12	4.09	4.12	4.14	4.21
D	授業環境について	4.30	4.32	4.23	4.17	4.08	4.07	4.01	4.08
12	クラスの学生数、教室の設備、備品などは適切な状態でしたか。	4.30	4.32	4.23	4.17	4.08	4.07	4.01	4.08
E	授業内容について	4.01	4.06	4.04	4.04	4.02	4.02	4.04	4.07
13	授業内容はわかりやすく整理されていましたか。	4.23	4.27	4.25	4.23	4.22	4.20	4.24	4.28
14	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.18	4.26	4.23	4.24	4.23	4.24	4.31	4.35
15	授業の内容・構成は、シラバスで書かれた目標に沿っていましたか。	4.18	4.21	4.22	4.19	4.18	4.19	4.23	4.24
16	授業のレベル(難易度)は適切でしたか。難しすぎたを5、易しすぎたを1とし、5～1の範囲で答えてください。	3.44	3.51	3.48	3.50	3.46	3.46	3.39	3.41
F	授業成果について	4.21	4.29	4.28	4.26	4.25	4.27	4.29	4.38
17	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え方、技能などを修得できましたか。	4.21	4.29	4.28	4.26	4.25	4.27	4.27	4.36
18	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。	4.16	4.26	4.26	4.25	4.25	4.26	4.30	4.37
19	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いますか。	4.26	4.30	4.29	4.28	4.27	4.28	4.31	4.40

平成28年度 都留文科大学卒業式



▲卒業証書授与の様子



▲卒業生のことば



▲応援団から
卒業生への
エール



当日の様子▶

平成28年度
卒業生・
修了者数

文学部	初等教育学科	199
	国文学科	126
	英文学科	120
	社会学科	
	現代社会専攻	83
	環境・コミュニティ創造専攻	67
	比較文化学科	123

専攻科	文学専攻	5
大学院	臨床教育実践学	1
	国文学	4
	英語英米文学	3
	比較文化	1
	社会学地域社会研究	1

平成29年度 入学試験状況

平成 29 年度 推薦入学試験状況			
学科名		受験者数	合格者数
初等教育学科		207	94
初等教育学科（センター利用）		78	22
初等教育学科（芸術体育系・自然環境科学系）		26	17
国文学科		158	66
英文学科		87	43
社会学科	現代社会専攻	77	43
	現代社会専攻（センター利用）	53	16
	環境・コミュニティ創造専攻	56	28
	環境・コミュニティ創造専攻（活動評価型推薦）	13	8
比較文化学科		96	52
比較文化学科（センター利用）		50	21
国際教育学科		25	24

平成 29 年度 編入試験状況			
学科名		受験者数	合格者数
初等教育学科		14	8
国文学科		10	5
英文学科		15	3
社会学科	現代社会専攻	9	1
	環境・コミュニティ創造専攻	7	2
比較文化学科		17	3

平成 29 年度 前期日程入学試験状況			
学科名		受験者数	合格者数
初等教育学科		131	37
国文学科		100	44
英文学科		84	58
社会学科	現代社会専攻	59	36
	環境・コミュニティ創造専攻	69	23
比較文化学科		224	63
国際教育学科		68	27

平成 29 年度 中期日程入学試験状況			
学科名		受験者数	合格者数
初等教育学科		964	101
国文学科		377	100
英文学科		286	97
社会学科	現代社会専攻	120	65
	環境・コミュニティ創造専攻	207	34
比較文化学科		226	84
国際教育学科		72	38

平成28年度

○学生表彰制度による表彰○

課外活動において特に顕著な成績を挙げたと認められる学生や団体、また、社会活動において社会的に高い評価を受けたと認められる学生や団体に対する学生表彰制度により、9名3団体が表彰されました。



被表彰者名	概要
女子バレーボール部 春日 咲乃	山梨県大学バレーボール春季リーグ戦 最優秀選手賞受賞
女子バレーボール部 山田 愛	山梨県大学バレーボール春季リーグ戦 セッター賞受賞
女子バレーボール部 水上 和葉	山梨県大学バレーボール春季リーグ戦 リベロ賞受賞
女子バレーボール部 神 真琴	山梨県大学バレーボール春季リーグ戦 スパイク賞受賞
女子バレーボール部 山田 佑真	山梨県大学バレーボール春季リーグ戦 サーブ賞受賞
女子バレーボール部 幡野 萌子	山梨県大学バレーボール秋季リーグ戦 最優秀選手賞受賞
女子バレーボール部 松尾奈津子	山梨県大学バレーボール秋季リーグ戦 セッター賞受賞
女子バレーボール部 細野 ちか	山梨県大学バレーボール秋季リーグ戦 リベロ賞受賞
女子バレーボール部 船田 純香	山梨県大学バレーボール秋季リーグ戦 スパイク賞受賞
合唱団	全日本合唱コンクール全国大会 8年連続金賞受賞、あわせて日本放送協会賞受賞
女子バレーボール部	山梨県社会人6人制バレーボール選手権 優勝、クラブカップ 山梨県予選 優勝、山梨県大学春季リーグ・秋季リーグ 優勝、関東甲信越大学体育大会 準優勝 他
男子ソフトテニス部	第5回全日本国立・公立大学対抗ソフトテニス大会 団体優勝

○成績優秀者表彰が行われました○

6月26日(月)に、昨年度(平成28年度)、学内において優秀な成績を修めた学生を表彰する「成績優秀者表彰式」が行われました。

対象となったのは、初等教育学科・国文学科・英文学科・社会学科・比較文化学科の2年生から4年生までの各学年で1名ずつ、計15名の成績優秀者と、各学年で4名ずつ、計60名の成績優秀者(今回は2名同点で1件あったので計61名)で、式典では横内理事長と福田学長からお祝いの言葉を頂き、続いて学長より表彰状が授与されました。

また対象者には、平成26年度より創設された「成績優秀者奨学金」が給付されます。



「Mt. Fuji Times」

富士急行線 5 駅で配布

Mt. Fuji Times 副編集長
英文学科 2 年 長谷部 夏江

▼河口湖駅駅員の
小泉征貴氏との一枚



▲富士急行本社前

平成 29 年 2 月より、英文学科の Mt. Fuji Times 編集部の学生が作成、発行するニューズレター「Mt. Fuji Times」が、富士急行線の 5 駅（大月駅、都留文科大学前駅、下吉田駅、富士山駅、河口湖駅）で配布されることになりました。

「Mt. Fuji Times」は、富士山周辺を訪れる外国人観光客や留学生に向けて、バイリンガルで情報を発信している季刊誌です。英文学科関連のイベントやおすすめの観光スポットなど、読んで楽しめる紙面作りを目指しています。私たち編集部は、英文学科の公認サークルとして平成 28 年 4 月に発足しました。

今回の富士急行線の駅での配布にあたり、平成 29 年 2 月 23 日（木）、堀内幸秀前編集長と私は、英文学科の加藤めぐみ先生と矢嶋総務課長と一緒に、富士急行本社、交通事業部次長の石井謙一様を訪問し、ご挨拶をさせて頂きました。駅での配布を励みに、さらに充実した「Mt. Fuji Times」を制作していきたいと思っています。



本学の学生が

「子ども食堂」を開催



学習支援の様子



当日の様子

本学の学生有志が市内の小中学生に学習支援や食事の提供を行う「つるっ子プロジェクト」という取り組みを実施しています。このプロジェクトは「大学生や地域の方々と子どもたちが一緒に食事をとったり、勉強をしたりすることで、笑顔になってほしい」という想いから結成されました。今回の子ども食堂「あつまれ！つるっ子！」では地元の JA や地域住民の皆さまの協力のもと開催されました。今後も一か月に一回のペースでこの活動が続けていきます。

教育フォーラム開催

5月14日(日)、本学2号館にて山中博さん、杉山比呂之さん、松田弘武さん、森雅人さんの計4名の講師を外部からお招きし、『『主体的・対話的で深い学び』の実践者への第一歩を!』をスローガンとする学生主催のフォーラムが開催されました。

山中博さんには「ボランティアのあり方・グローバルな人材とは」、杉山比呂之さんには「やり方ではなくあり方から探る教師の姿」、松田弘武さんには「教員採用の現状から自らの望むキャリア実現に向けて」、森雅人さんには「多様な教育現場から学校を捉え直す」のテーマで多岐に渡るお話をしていただきました。



都留から日本を変える!教育フォーラム

当日は学生や教員の方、そして地域の方の総勢109名の方が来場して下さり、教育について真剣に、そして多角的に考える契機となったと思います。

「まずは私から行動してみようと思います。」「価値観が広がった。」「自分がどうしたいのか、どうありたいかを考える契機となりました。」等々の前向きな意見を多くの学生が持ったことで、都留が変わり、そして日本が変わっていく確信を持ちました。

(国文学科4年 青野秀哉)

都留から日本を変える!

プロジェクトXで出会った挑戦者たち
成功者にある共通点とは



当日の様子

キャリア支援特別講演会

平成29年2月11日(土)、本学特任教授国井雅比古氏によるキャリア支援特別講演会「プロジェクトXで出会った挑戦者たち～成功者にある共通点とは～」が開催され、学生等約50名が参加しました。

国井さんは、元NHKエグゼクティブアナウンサーであり、長年に渡り担当されたドキュメンタリー番組『プロジェクトX』で多くの挑戦者達と出会った経験から、彼らとの出会いを通じて得たことや、人生を切り拓いていくために大切なこととは何かを、事例を紹介しながら熱く講演してくださいました。中盤、誰もが耳にしたことのある『プロジェクトX』主題歌、中島みゆきさんの『地上の星』を流すなど、参加者はすっかりドキュメンタリー番組の世界に引き込まれました。

特に、「自分の足で現場に行ってみることが大切」、「自分が感動しなければ、他人を感動させることはできない」といった説得力のある言葉が印象的で、社会に出ることに漠然とした不安を抱える学生達に、力強いエールが送られました。



特任教授
国井雅比古氏

平成28年度

第2回 地域教育相談室公開講座を開催

平成29年2月4日（土）に、都留文科大学1号館1215教室において、構成的グループエンカウンターをテーマとした地域教育相談室公開講座を開催しました。構成的グループエンカウンター（Structured Group Encounter: 略称SGE）とは、人と人とが直接ふれあい人間関係を形成するための有効な教育手法のことです。講座では、本学COC推進機構 品田笑子特任教授と本学保健センター 箭本佳己カウンセラーの指導の下、参加者たちは関係形成初期に活用できるエクササイズを次々に体験していきました。



品田笑子特任教授による説明



エクササイズの様子

平成28年度

第2回文大名画座を開催

平成29年3月18日（土）に、都留文科大学2号館2101教室において、第2回文大名画座『幕末太陽傳』（1957年公開）上映会を開催しました。上映前に担当教員である本学COC推進機構の山口博史准教授が、この作品の時代背景や映画内に出てくることばについての解説を行い、その後、映画が上映されました。参加者からは「解説の時代背景により（事前に知識があることにより）映画の内容を深く理解することができました。」「今後またこのようなジャンルの映画を観てみたいと思いました。」等の声を頂きました。

山口博史准教授による
解説の様子



フィールド・ミュージアム通信

『フィールド・ノート』の 合本を刊行しました



2002年に創刊された『フィールド・ノート』は、2016年に90号を迎えました。この冊子は、地域を観察し・記録し・学びあうことをテーマとし、本学の学生が主体となって編集しています。現在、都留文科大学地域交流研究センターのフィールド・ミュージアム部門の機関誌として、年4回、各号700部を発行しています。

合本は、これまでのすべての号を12巻にまとめたもので、地域交流研究センターや本学附属図書館、都留市立図書館でご覧になれます。

今回の合本刊行にあたっては、大田^{たかし} 堯元学長の『フィールド・ノート合本に寄せて』と題した別刷りも発行しました。合本とあわせてご活用ください。

(COC推進機構特任教授 北垣恵仁)

平成29年度 オープンキャンパス情報

・夏季オープンキャンパス

平成29年7月15日(土)、16日(日) 午前9時～午後3時

15日(土)：教養学部 学校教育学科・地域社会学科
文学部 国際教育学科

16日(日)：文学部 国文学科・英文学科・比較文化学科・
国際教育学科

*教養学部 学校教育学科・地域社会学科は、2018年4月に文学部 初等教育学科・社会学科を改組してできる新たな学部学科です。

【主な内容】○学科別相談会○卒業後の進路と就職状況説明会
○学科別特別講義○進学相談会○留学制度相談会
○学生生活相談会○学生によるキャンパスツアー
○学食体験○学生企画○体育会、文化会等の活動報告



個別相談会の様子
(夏季 OC)

大学概要説明会の
様子(夏季 OC)



国際教育学科特別講義
の様子(秋季 OC)

キャンパスツアーの
様子(秋季 OC)



・秋季オープンキャンパス

平成29年10月9日(月・祝)～13日(金)

※11日(水)を除く

午前9時10分～午後4時20分

【主な内容】○公開授業体験
○キャンパスツアー
○進学相談会○学食体験



同窓生支援による 模擬面接試験体験会

取り組みに繋がる良い刺激を得たようです。

また、第二部では受験地域ごと教室に分散し、各地域の試験内容に即したアドバイスや、集団面接・討論等の実践指導を実施していただきました。学生にとっては、同窓生の先輩方とつながることができる貴重な機会となり、その絆を心強く感じたことと思います。ご協力いただきました同窓会の皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

5月13日（土）、教員を志望する学生を対象に、教員採用試験2次試験対策『模擬面接試験体験会』を開催しました。会には134名の学生が参加し、全国各地から参集した32名の同窓生講師により、様々なご指導をいただきました。

第一部は、代表学生が集団面接・集団討論・模擬授業を公開で行い、本試験を想定した内容を実践することで見えてくる弱点や改善点等、面接官役の講師からきめ細やかな指導をいただきました。見学した学生は、「実践内容を客観的に見ることで、2次試験対策として自分に不足しているところを具体的に知ることができた」と感想を述べており、今後の



第48回 つる子どもまつり開催

5月21日（日）、都留文科大学を会場として第48回つる子どもまつりが開催されました。

「子どもたちに地域の中で健やかな成長を遂げてほしい」という想いのもと、午前9時の開会式から3時50分に閉会式が終了するまでの間、ブース毎に工作や演劇、音楽の演奏などのレクリエーションが行われる「くに企画」や、来場者全員参加の「みんなの広場」などの企画が実施され、訪れる人たちの笑顔がはじけました。



名誉教授の称号授与

野畑真理子氏

社会科学教授、25年の長きに渡り本学で研究・教育に取り組み、社会科学の基礎づくり、学科の拡充、大学院の創設、二専攻化などに寄与された。また、全学的に2005年にはじまったジェンダープログラムへの貢献、2007年度からの社会科学が社会調査士資格の資格認定校となったこと、その後の運営にも尽力された。予算委員長、社会科学主任、人権委員長などを歴任。

優れた多くの学生を輩出するなど、本学発展のため多大な貢献を賜り、誠に有難うございました。



訃報

平成29年1月21日(土)、名誉教授 白尾恒吉氏がご逝去されました。
平成29年1月28日(土)、名誉教授 楠元六男氏がご逝去されました。
ここに先生の生前の御功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

人事異動

採用

加藤 優 (初等教育学科教授)
斉藤 淑子 (初等教育学科特任教授)
原 まゆみ (初等教育学科特任教授)
小石川 正文 (国文学科特任准教授)
Hywel Evans (英文学科教授)
樋口 雄人 (社会科学教授)
西尾 理 (社会科学教授)
松平 好人 (社会科学准教授)
齊藤 みどり (比較文化学科准教授)
原 和久 (国際教育学科教授)
森川 鈴子 (国際教育学科教授)
前島 礼子 (国際教育学科講師)
山辺 恵理子 (国際教育学科講師)
町田 宗鳳 (国際教育学科特任教授)
James Henderson (国際教育学科特任講師)
相澤 崇 (情報センター准教授)
亀田 孝夫 (教職支援センター特任教授)
川村 直廣 (教職支援センター特任教授)
宮下 仁 (教職支援センター特任教授)
小笠原 幸夫 (教職支援センター特任教授)
大迫 弘和 (キャリア支援センター特任教授)
Delgrego, Nicholas (語学教育センター講師)

退職

野畑 真理子 (社会科学教授)
奥脇 奈津美 (英文学科教授)
中島 康雄 (国際交流センター特任教授)
和田 望 (国際交流センター特任講師)
深澤 知恵美 (総務課主査)

転入

学生課課長 澄川 宏
市民部 地域環境課参事 (大月都留広域事務組合所長)
学生課課長補佐 高部 章
市立病院事務局 主幹

学生課保健師長 中村 さき子
福祉保健部 健康子育て課主任保健師
総務課副主査 井上 和洋
福祉保健部 長寿介護課副主査
総務課 杉田 健二
市立病院事務局長 (兼) 介護老人保健施設つる事務局長
学生課 長田 弘美
会計課

転出

市民部 市民課課長 菊地 保 (学生課課長)
農業委員会事務局次長 藤江 耕正 (学生課課長補佐)
総務部 総務課主幹 (兼) 課長補佐・行政防災室長
田中正樹 (経営企画課課長補佐)
市民部 税務課主査 小林 誠 (学生課主査)

昇任

国文学科教授 長瀬 由美 (国文学科准教授)
英文学科教授 Hamish Gillies (英文学科准教授)
総務課主幹 (兼) 課長補佐
鈴木 卓 (総務課副主幹)
総務課副主幹 関戸 章雄 (総務課主査)
経営企画課副主幹 小澤 初美 (経営企画課主査)
学生課副主幹 田代 崇 (学生課主査)
学生課副主査 上野 剛 (学生課主任)
経営企画課主任 横田 祐太郎 (経営企画課主事)
学生課主任 高野 裕介 (学生課主事)
学生課主任カウンセラー
箭本 佳己 (学生課カウンセラー)

配置換

経営企画課主幹 (兼) 課長補佐
小林 泰憲 (総務課主幹 (兼) 課長補佐)
学生課主査 櫻場 江利子 (経営企画課主査)

編集後記

国文学科教授 古川 裕佳

犬を飼ってから、犬の本が気になる。安岡章太郎に『犬と歩けば』『犬をえらばば』というエッセイ集があり、志賀直哉や川端康成、坂口安吾などの文豪から、遠藤周作、江藤淳、吉行淳之介ら文壇の犬好きのエピソードが語られている。安岡たち〈第三の新人〉が犬を飼うようになったのは、流行作家として安定した家庭・家屋・生活を得る時期と一致していることが興味深い。

定住と安定と持ち家というのが犬を飼う条件なのだろうか。たとえば志賀直哉は、奈良に自ら設計した家建てて犬を飼い、「犬」という短篇を書いている。犬が逃げ出して帰ってくるというだけの話だが、犬が帰るべき場所としての〈家庭〉をあぶりだしている。また、坂口安吾は戦争中から戦後まで下宿や友人の家を転々としていたが、四十代で結婚して一家を構えたとコリー犬を飼い始める。生まれたばかりの長男に嫉妬した犬がかみつこうとした様子をかえって面白がるところが、相変わらずの無頼派作家らしくて面白い。

仁科邦男『犬たちの明治維新 ポチの誕生』による

と、飼い犬という文化は近代的なものである。近代以前、犬は村の犬、里の犬として、飼い主を持たず放し飼いにされていた。それが明治期以降、個別の名前を持ち、特定の家庭に属するようになったのだという。

家庭での畜犬が始まって100年以上になると、飼育法についての議論も様々である。従来は、犬は家庭で序列を作る、人間は犬に舐められないようにしてはいけない、とされていたが、近年では〈リーダー論〉も解消されつつあるようだ。いわく、犬は人間を仲間・パートナーとして見ており、犬との関係はフラットなもので良いとか。リーダーシップから関係性へ、というのは、どこか教師論や育児論の流れと重なっているようにも思われる。また、文学研究で言うなら作家論から読者論への転回と重ねることもできるかも知れない。

こんな風に考えていると〈犬本〉をめぐるまだまだ楽しめそうな気がする。

犬関連書籍と愛犬▶



ぶんだい堂



教室は楽しい授業でいっぱいだ

山崎 隆夫 著
2017年3月発行
高文研 1,700円＋税

◇やまざき たかお
教職支援センター 特任教授

合唱エクササイズ 指導編 1

清水 雅彦 著
2017年3月発行
カワイ出版 1,000円＋税

◇しみず まさひこ
初等教育学科 教授



ひととはもとと アクティブ・ラーナー！ —未来を育てる 高校の授業づくり—

山辺恵理子・木村充・中原淳 編著
2017年3月発行
北大路書房 2200円＋税

◇やまべ えりこ
国際教育学科 講師

東アジアの共通善

—和・通・仁の現代的再創造をめざして—

荒木 勝 監修、邊 英浩 編集
2017年3月発行
岡山大学出版会 750円＋税

◇ぴょん よんほ
比較文化学科 教授



〒402-8555 山梨県都留市田原 3-8-1
☎ 0554-43-4341
URL: <http://www.tsuru.ac.jp/>

都留文科大学報 第134号 2017年7月7日発行

都留文科大学広報委員会

古川裕佳(委員長)・日向良和(副委員長)・水口潔・市原学・加藤めぐみ・樋口雄人・内山史子・ヨハンノルドストローム・山口博史・新保祐司(担当副学長)・小林泰憲(経営企画課長補佐)・関戸章雄(情報センター)・高山みどり(企画広報担当)・渡邊誠大(企画広報担当)